

2) オプションの説明

スプリッタ画面を表示するには、早業で事業所を開いてからメニューの「アシスタント」→「ツール」→「スプリッタ」を選択すると以下の画面が表示されます。

スプリッタ

ヘッダオプション

Excelパターンを選択してヘッダ行を指定

行数を指定してヘッダ処理

ヘッダを指定しない

範囲オプション

すべての行を対象とする

指定行の範囲を対象

スプリットのオプション

1つのExcelファイルに作成するシート数は 200 シートまで

グループ処理を有効にして 列 & 列 の一意な番号単位でシートを生成する

空白を前の行の値で埋める 空白を前の行の値で埋める

行列を入れ替えてからスプリットする

Excelファイルの1行のデータを1シートに変換する処理です。
ファイルをここにドロップして保存先を選択すると
処理が開始されます。

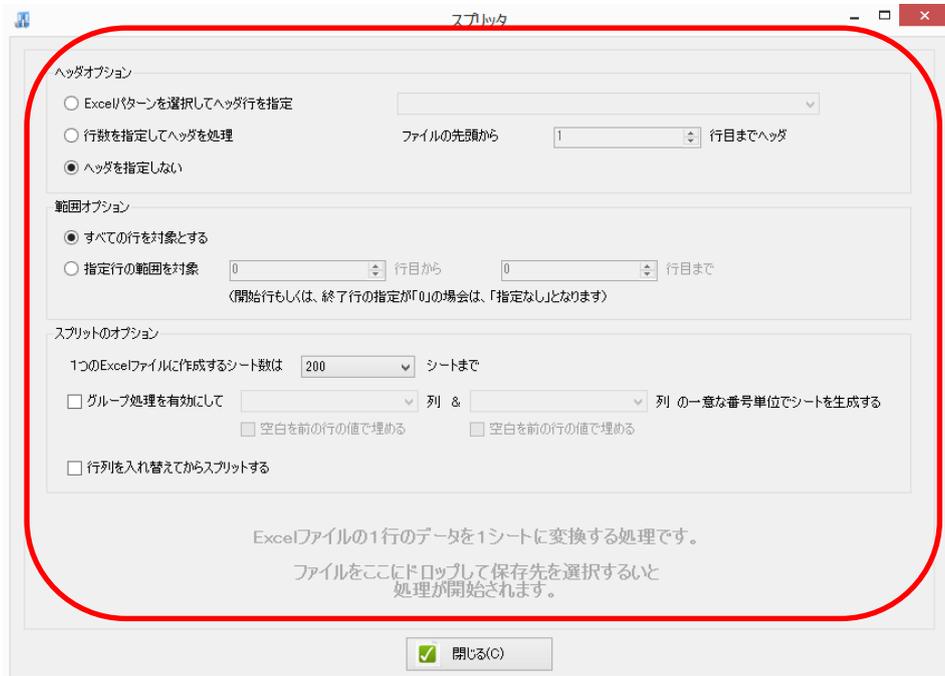
開じる(C)

以下のオプションを設定することが可能です。

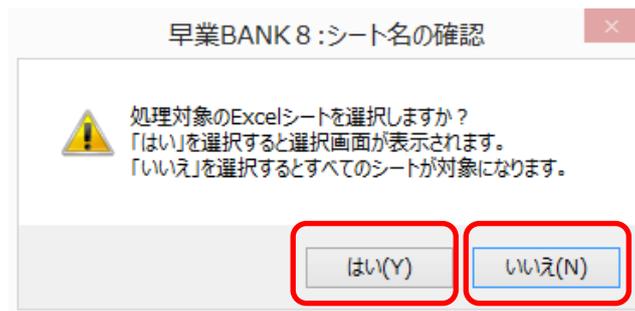
大項目	詳細項目	説明
ヘッダオプション (ヘッダを指定すると各シートにヘッダ情報が付加されます)	Excel パターンを選択してヘッダ行を指定	パターン設定時のヘッダ情報の行数を利用します。
	行数を指定してヘッダを処理	行数を設定してヘッダ処理を行います。
	ヘッダを指定しない	ヘッダ処理をしません。先頭行からデータ行として扱います。
範囲オプション	すべての行を対象とする	すべての行をスプリット対象とします。尚、ヘッダ行を指定している場合は、ヘッダ行の次の行からが処理対象となります。
	指定行の範囲を指定	指定した行の範囲をスプリットの対象とします。開始行を指定しない場合は先頭行から、終了行を指定しない場合は最後まで処理されます。
スプリットのオプション	1つのExcelファイルに作成するシート数	1つのExcelに生成するシート数を指定します。大量のシートを生成すると、処理上性能が悪くなる可能性があります。
	グループ処理を有効	通常のスプリットは、1行単位でスプリットしますが、グループ処理を有効にして「列」を指定すると、その列中の同一文字列単位でスプリットします。
	行列を入れ替えてからスプリットする	このオプションは、行列を入れ替えて処理するオプションです。データの並びが縦横を入れ替えた場合に利用できます。

3) スプリットの処理方法

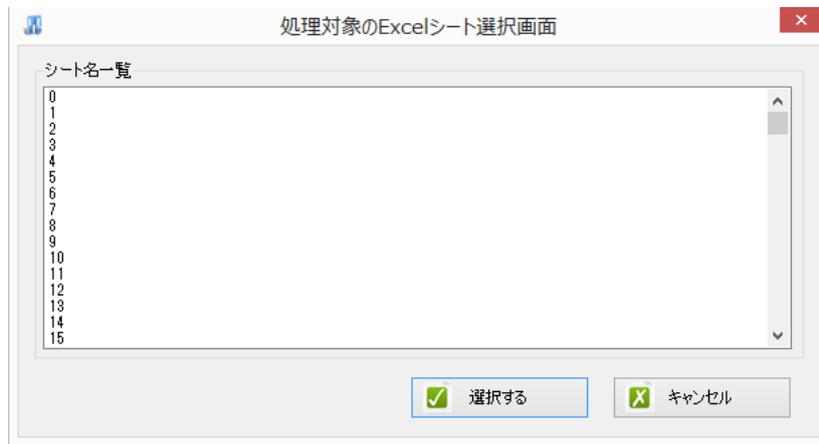
スプリットの処理方法は、まず初めに以下のスプリットの画面でオプションを設定します。



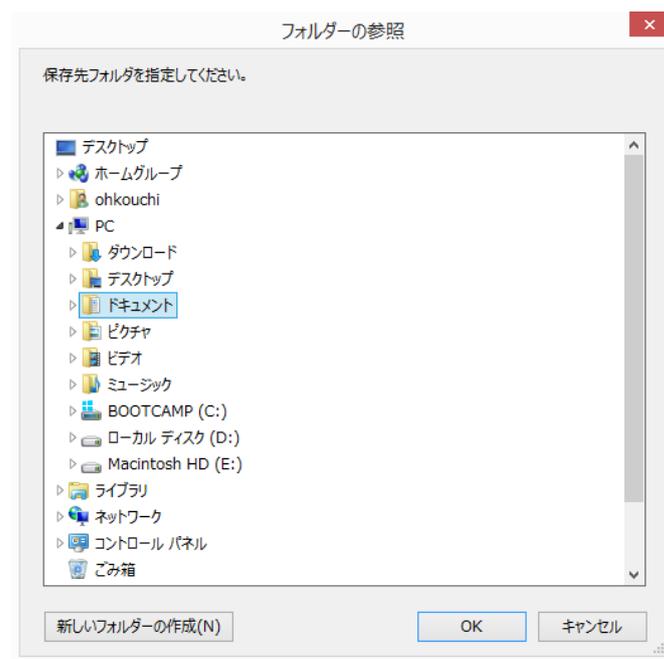
正しくオプションを設定したら、上記の画面に対象のファイルをドロップします。
ドロップしたファイルが Excel の場合は、以下のシートを選択する画面が表示されます。



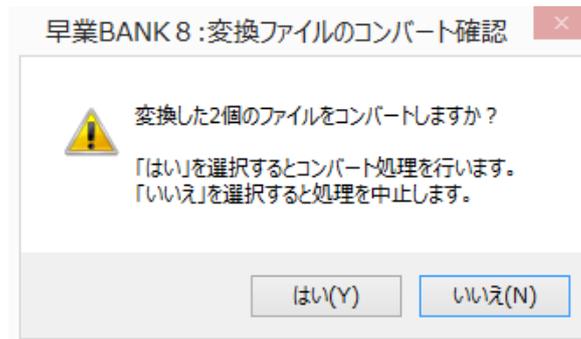
上記の画面で「はい」を選択すると、以下の画面が表示されます。



上記の画面では、スプリット対象のシートを選択します。選択後以下の画面が表示されま
す。



上記の画面で保存先のディレクトリを選択して「OK」を選択すると処理が開始されます。
スプリットの処理が完了後、以下の画面が表示されます。



上記の画面では、スプリットして生成したファイルを引き続きコンバートする場合は、「はい」を選択します。生成されたファイルを確認するために処理を中止する場合は、「いいえ」を選択します。

以上